

令和5年度 京都府立井手やまぶき支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針		前年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点(短期目標/概ね1年間)		
<p>【教育理念】 地域と共に歩む学校</p> <p>【校 是】 光輝 地域(まち)を照らせ</p> <p>【学校教育目標】 みかく むすぶ きりひらく</p> <p>【目指す人間像】 よりよい社会と 幸福な人生を創り出せる人</p> <p>【経営方針】 中期経営方針(開校概ね3年間) ◇教育目標実現のために、開校後の第一期、三年間において、地域関係者・保護者に、教育実践・教育課程を理解いただきながら同時に、教育実践・教育課程づくりへの連携協働を進め、「井手やまぶき支援学校」がこの地域にあって良かった」という思いをもっていただけるように、あらゆる分野において精励する学校経営を実施する。そのために、学校予算の合理的かつ効果的な執行を実施する。 基盤となる課題・重点課題(「アクション7<セブン>」)を制定する。</p>		<p>前年度は開校年度ということで全ての取組が初めてとなる一年であったが、全体としてスムーズなスタートを切る事ができた。開校年度の到達点を踏まえ、地域関係者・保護者から信頼され、期待される学校づくりを一層推進する。 ・開校準備の段階から様々な御支援いただいたことで開校と同時に図書ラウンジの開館と読書活動の推進がスタートできた。さらに図書ラウンジを中心とした、『こまちサロン』では多くの方々に、豊かな体験型学習を展開していただくなど旺盛に活用できた。地域の方に支えていただく一方で、地域への貢献として高等部を中心とした清掃活動等を行うことができた。今後も「井手やまぶき支援学校がこの地域にあって良かった」と思ってもらえるような地域貢献活動を展開し、『地域と共に歩む学校』を目指していきたい。 ・生涯学習の基礎基盤を目指したCS(コミュニティースクール)との連携であるISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)では、地域の諸団体・サークルの協力を得られ、実施できたが参加手段に課題があった。参加しやすく、参加者を増やし、より地域に根差した取組となるように展開していきたい。 ・感染症対策の徹底により比較的感染者も少なく、校内クラスターが起こることもなかった。今後も感染症対策と学びの保障の両立を追求する。 ・教育実践・教育課程を理解いただくための発信や学校公開のさらなる工夫を行う。今年度は開校第1期の中間として、また、自己研鑽の場として、中間実践発表会を実施する。 ・教職員の働き方は月45時間以上の超過勤務者が月平均22名を超えていた。自己管理を行えるような仕組みを設けると共に、業務の改善や分担等による業務時間の平準化を図る。はつらつさそうとした働き方は教育効果を上げることにつながるのと考えるものも追求していきたい。また、『みかく・むすぶ・きりひらく』教職員として児童生徒の模範となるよう、コンプライアンス意識をさらに高める。</p>	<p>井手やまぶきアクション7(セブン)開校3ヶ年計画うち2年目 【基盤となる課題】 アクション1 教職員の専門性確保と本校第2期への継承、「学ぶ・働く」を支える環境条件づくりと教職員の学びが子どもを育てるという意識の醸成 研究、OJT、外部専門家、働き方改革プロジェクト アクション2 多様な専門性を持つ教職員の、それぞれの専門性を生かした連携と協働。地域関係者・保護者との連携と協働 学校経理、施設・設備、情報の管理、情報の公開、危機管理、医療的ケア、学校運営協議会(コミュニティースクール)、PTA、YS(やまぶきサポーター)、YB(やまぶきボランティア)、外部専門家 等、インクルーシブ教育システムづくり 【重点課題】 アクション3 どのような時代であっても必要な資質・能力の育成 教科指導、教育課程、カリキュラム・マネジメント、(GIGAスクール)ICT 等 むすびカリキュラム、(2年目中間実践発表会・3年目公開研究会) アクション4 生涯に及ぶ、生きる力の育成のための基礎づくり 読書活動、生涯スポーツ・学習、ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)、交流及び共同学習 アクション5 大人に向けた健やかなからだ、豊かな心の育成 保健指導、安全教育、性教育、主権者教育、生徒指導、教育相談、特別活動、いじめ 等 アクション6 自立と社会参加を実現し、幸福な人生とよりよい社会づくりを目指す力の育成 進路指導、キャリア発達、等 アクション7 早期支援重視した地域支援推進、地域関係者・保護者との連携と協働 井手やまぶき相談・支援センターのみならず全校による地域支援</p>		
評価領域	重点目標	具体的方策/目標値	評価部門	総合	成果と課題
アクション1	【研究】 ・全校研究主題の実践研究推進 ・実践発表会を行う	①外部専門家の助言や授業者支援会議から自らの実践を振り返る機会を持ち、授業改善を行う。(全担任実施) ②全校プロジェクトを立ち上げ、開校第1期の中間発表として令和5年度実践発表会(11月28日(火))、令和6年度公開研究会を行う。	◎	◎	三菱みらい育成財団の助成を受け、外部講師を招聘し、最新の情報や専門知識を学ぶことができた。 ①96%実施 3回の京都府総合教育センター出前講座による授業研究会で指導助言を受けた。授業者支援会議(みかく授業者サポート)では前期18名、後期42名、混合3名の授業改善ができた。 ②研究プロジェクトを立ち上げ、実践発表会を実施し、京都府立特別支援学校へ本校の教育について発信することができた。
	【OJT】 ・教育公務員として府民に信頼される教育活動を基盤とし、児童生徒の規範となる誇りある行動実践に努める。 ・学校組織としての人材育成体制の整備	①体罰や不適切指導、職員間のハラスメントの根絶等、人権意識と社会人・教育公務員としての自覚と行動実践、コンプライアンスの向上につなげる研修や実態調査の実施(不適切事象0) ②教育理念・学校教育目標の理解と学校経営目標を意識した教育活動の追求。中間期、総括期にアンケートにて振り返り達成度を確認する。 ③学部組織を重層的・機能的に運営するための学年・コース長、副の育成 ④教職員キャリアステージの指標の意識化とステージ別研修の実施 ⑤校内横断的総合企画の推進(3企画程度) ⑥専門組織が提供する研修動画等による研鑽(ナビゼミ、NISE 学びラボ、NITS オンライン講座等の受講1人月1回以上) ⑦初任者及び転入教職員・講師対象の校内研修の充実 ⑧教職員ハンドブック、学校施設管理マニュアル、文書マニュアル等の周知、活用、次年度に向けた見直し	○	○	①全校、各学部で研修を実施するとともに、体罰や不適切指導、職員間のハラスメントについて教職員アンケートで実態調査を実施し、対処した。不適切事象の根絶等、人権意識と社会人・教育公務員としての自覚と行動実践、コンプライアンスの向上を追求する。 ②保護者95%、教職員98% 教育理念・学校教育目標の理解と学校経営目標を意識した教育活動のさらなる追求を行う。 ③全校学部経営会議で学年長・コース長、副学年長・副コース長の職責を明確化した。学年・コース、学部の経営意識を高めていく。 ④ステージ別研修を実施し、各ステージごとの指標の意識化、求められる力についての認識を高めることができた。 ⑤「やまぶき誕生日会」「やまぶき祭を盛り上げ隊」「やまぶきアートギャラリー」等の企画・実施 ⑥80%実施 ⑦コンスタントに視聴し、報告を行うことが課題。自己研鑽は職務であること、教職員自ら率先して学び続ける姿勢を追求する。 ⑦初任者研修の対象を講師や希望者にも広げ校内研修の充実を図った。 ⑧新規採用者、転入者、年度途中の任用の臨時講師にとって業務等の周知に役立った。次年度に向けて適宜見直しを行う。
	【働き方改革プロジェクト】 ・ライフワークバランスを踏まえた安全で魅力ある職場環境の創出 ・愛校精神の基盤となるように清潔で美しい学校環境を築く。	①『やまぶきスマートプロジェクト』に基づく快適な職場環境の整備、ペーパーレス化、ノー残業デー、クリアデスク、リフレッシュの機会の充実、衛生委員会との連携等 ②会議の所要時間を45分以内とする。 ③時間外勤務を中間時点で各自が把握し、自己調整できる機会の提供。 ④業務時間の平準化(役職者の校務分担改善、担当管理職と業務内容・分担の相談、教員業務支援員の活用、年休取得の推奨、組織の視点等の意識改革)(時間外勤務月45H超教員0人)	○	○	①がくぶり、GWの活用でペーパーレス化を継続できた。月1回のノー残業デーは完全実施。衛生委員会・働き方改革委員会主催によりリフレッシュの機会(キッチンカー、ラダーゲッター大会)を設けた。①リフレッシュイベントには参加率が課題、がくぶりやGWの取り扱い以外の紙資料の削減を検討する。 ②Teamsの活用等により所要時間を45分以内で実施する会議が増えた。③会議の性格上一律の時間設定は難しい。時間短縮の工夫を行いつつも経営・運営・企画会議は、一定の協議時間が必要。情報共有・情報周知会議とメリハリをつける。 ③学期に1回の2週間19時完全退勤期間の実施や時間外勤務を月中間時点で各自が把握し、自己調整できる機会を提供した。 ④94%が意識 業務平準化に向けて担当管理職による業務分担の一部整理を行った。また、教員業務支援員を有効に活用するなど、月平均で時間外勤務が45Hを超える月はなかった。④時間外勤務月45H超の教職員が月平均11名であった。昨年度22名からは大幅に減少できたが、依然一部の教職員への業務の偏りがある。学期別では1学期19.5名/月、2学期7名/月であり、1学期の繁忙が課題。「組織としての働き方」への意識改革を追求する。
アクション2	【チーム学校】 ・質の高い教育活動を支える経営企画機能の充実	①多様な専門性を有するスタッフや外部専門家と教職員が自らの専門性を十分に発揮し、「チーム学校」としての総合力、教育力を最大化できる体制の構築 ②経営企画室と職員室の連携と情報共有による確実な業務遂行	○	○	①多様な専門性を有するスタッフや外部専門家の助言等により、教員の専門性が向上し、児童生徒への指導力・支援力を高めることができた。 ②経営企画室と職員室の連携と情報共有により確実な業務遂行を行った。
	【学校経理】 【施設設備】	①学校経営計画の具体化に向けた合理的・効果的な予算執行を学校経営会議で予算状況の開示を行い節減につなげる。 ②整理整頓されたきれいな教室・廊下、掲示板の整備・活用、花壇・植込み・農場の美化・整頓 ③絵画作品等の計画的展示等、アートギャラリーを活用した芸術活動の推進 ④府立学校体育施設開放事業の実施(年4回)	○	○	①学校経営会議で予算状況の開示を行い節減につなげた。 ②保護者95%、教職員99% 引き続き維持管理に努める。 ③アートギャラリーを設置し、作品発表等芸術活動を推進できた。④年間を通じた計画的展示を行っていく。 ④府立学校体育施設開放事業に基づき年5日解放し2日2団体の活用があった。
	【情報の管理、情報公開】	①個人情報保護と紛失事故防止、クリアデスクの徹底 ②HPによる情報発信の活性化(各学部毎日発信) ③新聞社への広報(掲載1回/月)	◎	◎	①85%実施 個人情報保護をさらに徹底する。 ②③保護者97%②各学部の様子をほぼ毎日発信することができ、好評を得ることができた。②③がくぶりの発信方法等については検討が必要 ③新聞社掲載、1回/月、教育雑誌に4回、テレビ放映1回取り上げていただいたことから、本校の教育や取組について地域への発信ができた。
	【危機管理】 ・学校安全会議の計画的な運営による安全・安心な安全管理体制の構築 【医療的ケア】	①感染予防・感染拡大防止等対応の徹底 ②地域との災害時相互協力関係をPTA防災部と連携をしながら推進する。 ③『普通救命技師認定証』を保有する教職員(現有+10%以上) ④医療的ケア安全委員会を中心とした研修を計画的に行うと共に、医ケアに関するヒヤリハット事象及びインシデント・アクシデント情報の周知と事故発生防止の徹底 ⑤個別の緊急対応訓練の実施(各学部3回以上) ⑥あらゆる危機に対して、早期対応と情報共有、組織対応の徹底	◎	◎	①保護者100%、検温・手指消毒設備の設置、マスク着用・体調不良時の自宅療養推奨等の感染予防・感染拡大防止対応を行った。また、教員業務支援員による校内消毒を行い、衛生的な環境確保に努めた。 ②地域との災害時相互協力関係については今後進めていく必要がある。 ③R5年度保有率75%(昨年度+19%) ④医療的ケア安全委員会を3回実施し、医ケアに関するヒヤリハット事象及びインシデント・アクシデント情報の周知と事故発生防止について確認した。 ⑤個別の緊急対応訓練を各学部3回ずつ実施し、回を重ねるごとに制度を上げ、組織的に対応できるように情報共有ができた。 ⑥管理職を中心として、早期対応と情報共有、組織対応を徹底した。
	【保護者・地域との連携・協働】 ・地域の中での生涯学習の基盤作りとして、地域と共に歩む学校づくりに向けた推進体制を構築 ・学校運営協議会(コミュニティースクール)、PTAとの協働	①学校公開(年5回)来校者(年700名以上)、やまぶき祭来校者(200名以上) ②学校評価保護者アンケートの回収率(90%以上) ③PTA(YS)、地域ボランティア(YB)による応援組織の構築(年延べ140名) ④PTA本部役員会への学年・コース長の参加と協働 ⑤PTAとCSの連携、CSの下部組織の始動、ISCCの支援体制の検討 ⑥地域住民の参画による豊かな体験的学習の充実(こまちサロン20回以上等)	◎	◎	①学校公開(年5回)来校者は891名、やまぶき祭256名の来校があった。年間119名の外部来校者があり、本校の教育や取組について知っていただく機会となった。 ②70%の回答 昨年度57%から大幅に増加した。アンケート等の意見を参考に学校経営に生かしていく。 ③1月末現在YS(やまぶきサポーター)述べ145名、地域ボランティアYB(やまぶきボランティア)述べ約200名の参加があり、教育活動を支えていただくなど、学校応援の基盤の形成を進めることができた。④YS(やまぶきサポーター)は、幅広く参加者を募っていききたい。 ④学年長・コース長を中心にPTA専門部と協働して取り組めた。また、外部研修会にも参加しPTAの取組を知ることができた。 ⑤CSの下部組織として「スポーツ・文化を楽しむ日部会」「キャリア教育部会」が始動した。やまぶき祭ではキャリア教育部会がブースとして取り組み、労働・職業への関心を高める機会となった。⑤PTAとの連携を進めていく。 ⑥地域の匠の参画により地域の方々と触れ合い、豊かな体験的学習を充実させることができた。(こまちサロン小10回、中9回、高8回)
【インクルーシブ教育システム】 ・インクルーシブ教育の構築を目指した、交流及び共同学習の実施	①小学部居住地校交流の実施、直接交流だけでなく様々な交流形式を追究(R4年度実績+10%以上) ②交流及び共同学習等学校間交流の計画的な実施 ③地域貢献活動等地域との多様な取組の実施	○	○	①小学部居住地校交流では、直接交流だけでなく、動画や作文交流等の多様な交流形式で実施できた。①実施率はR4年度と同様(33名、50%)に留まった。 ②保護者90% 計画的に学校間交流、交流及び共同学習を実施した。(小6回、中4回、高3回)②共同学習への追求が課題 ③高等部を中心に通学路や公共施設等への清掃、駅頭への花プランターの設置を行い地域ボランティアとの協働を行なえた。	
どのよう な	【教科指導、教育課程】 ・主体的・対話的で深い学び(個別最適な学びと協働的な学びの追究)、授業改善 ・教育目標に基づく授業実践と地域資源を活用した授業の実施	①担任が行う自立活動の指導の充実と流れ図を使った実態把握から具体的な指導内容の設定 ②確かな学力の育成に向けて基礎基本的な知識・技能の確実な習得を図る教科別の指導の充実 ③主体的に取り組む意欲や自信、自己肯定感等を育てる各教科等を合わせた指導の充実 ④各教科等横断的な視点を持った学習の実施 ⑤地域資源活用の取組を継続的に実施	◎	◎	保護者88% ①97%の作成率 流れ図の検討で、複数の視点で個に応じた支援について実態把握から具体的な指導内容の把握ができた。 ②86%充実させることができた。 ③97%充実させることができた。 ④教科横断的な観点をもち、学習指導要領に基づいた単元計画・指導案の作成で、指導の目標との関連を明確にした授業作りの工夫ができた。 ⑤「ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)」「こまちサロン」等を行った。⑤特別活動としての取組から、他教科等における継続的な地域資源の活用にも検討していきたい。

<p>リ ク シ ョ ン 3</p> <p>質 能 力 の 育 成 に も 必 要 な</p>	<p>【カリキュラム・マネジメント】 ・継続的・発展的な授業改善の推進 ・重層的・機能的な組織運営と教育指導に向けた組織マネジメント</p>	<p>①学部間・教師間の連携、学びの連続性等、12年間を結び、『むすびカリキュラム』の展開 ②総括・教務部長会議と連携しながら各学部で教育課程を検討し、指導計画の改善に生かす。 ③学年・コース長のリーダーシップのもと、学年及びコース運営を効果的に行う。全校学部経営会議で目的等の共有を行う。 ④副学年・コース長を中心にフォローアップや教職員集団の同僚性を高める。 ⑤ペアクラスや学年・コースや自立活動推進担当等の教師集団がつながり、日常的に組織的な指導を行う。</p>	<p>○</p>	<p>○</p> <p>①むすびカリキュラムによるむすびスタディ(小6-中2、中3-高2)を9~11月に実施した。児童生徒にとってはあこがれや生活年齢を意識した振る舞い等を育むことができ、指導者にとっては他学部の状況や指導観を学ぶことができた。 ②月1回総括・教務部長会議を実施、学部間や学部と連携し教育課程や、指導計画の改善に生かした。 ③学年長・コース長がリーダーシップを発揮できるよう、副コース長・副学年長を置いた。全校学部経営会議で学年長・コース長、副学年長・副コース長の職責を明確化し、学部を重層的・機能的に運営することができた。 ④副学年長・副コース長を中心にフォローアップや教職員集団の同僚性を高めることができた。 ⑤ペアクラスや学年・コースや自立活動推進担当等の教師集団がつながり、日常的に組織的な指導を行う。</p>
<p>ア ク シ ョ ン 4</p> <p>生 涯 に 及 ぶ 、 生 き る 力 の 基 盤 作 り</p>	<p>【読書活動の充実】 ・府特別支援学校の読書活動の牽引校として蔵書整備しつつ、読書活動が定着するように全校プログラムを展開する。</p>	<p>①外部専門家を招き、YS(やまぶきサポーター)と協働し、図書環境を整備すると共に読書活動を充実させる。 ②読書月間や読書表彰式等による全校的な読書活動の推進(本の貸出 年5000冊以上 月1人3冊以上) ③図書・新聞を活用した読書活動を組み入れた授業連携(学部3例) ④特別支援学校読書活動研究会を主催し、取組事例等を発信する。 ⑤蔵書数2500冊以上(R5年度約2150冊スタート) ⑥「誰もが読書ができる学校図書館」を体現するべく、LLブックや布の絵本・さわる絵本、DAISY、電子書籍等を充実させる。 ⑦分類マークの意味理解を促し、分類マークを活用した図書活動の推進(分類マーク地図の作製等) ⑧府立図書館や町立図書館の活用及び団体貸し出しの積極導入(500冊) ⑨読み聞かせの会(12回以上)、読書月間の実施(6月、2月)</p>	<p>○</p>	<p>保護者90% ①60%の実施 学部ごとに研修会を実施し、内容等をGWで共有できた。ロイノート授業ファイルは昨年度3件が今年度61件と大幅に増加した。KeynoteやTeams、Formsの活用も増加している。①アプリの整理が課題。活用には個人差がみられる。 ②30%の実施 各学部の取組事例を共有した。好事例を蓄積していく。②プログラミングについて学ぶ必要がある。 ③ICT機器を活用して土浦特別支援学校と遠隔交流を各学部2回実施することができた。</p>
<p>ア ク シ ョ ン 5</p> <p>大 人 に 向 け た 健 や か な 心 の 育 成</p>	<p>【読書活動の充実】 ・府特別支援学校の読書活動の牽引校として蔵書整備しつつ、読書活動が定着するように全校プログラムを展開する。</p>	<p>①CSを機能させ、ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)を年4回実施する。参加しやすい制度設計の模索(参加者100名以上) ②外部部活指導者による、専門的な指導のもと部活動の計画的な実施 ③府立特別支援学校スポーツ交流会大会等への計画的な参加</p>	<p>○</p>	<p>保護者95% ①YS(やまぶきサポーター)と協働し図書環境を整備すると共に、外部専門家の助言を受け、読書活動を充実させることができた。 ②読書月間や読書表彰式等による全校的な読書活動の推進を行った。本の貸出は1月末現在4700冊、月平均1人4.7冊を達成できた。②貸出冊数はクラスの取り組み方により差がある。一人3冊/月は定着できるよう取り組んでいく。 ③読書活動を組み入れた授業連携では、小学部20例、中学部7例、高等部2例実施できた。③連携の実績を記録し共有・評価できるようにする。 ④読書活動研究会を主催し、府内の特別支援学校に取組事例等を発信できた。 ⑤様々な御支援をいただき2750冊の蔵書を達成できた。 ⑥LLブックや布の絵本・さわる絵本、DAISY、電子書籍等を前年度比約1割増やすことができた。 ⑦66%の実施 分類マーク地図の作製をし、活用を促した。⑦分類マークの理解を進める。 ⑧府立図書館や町立図書館、団体貸し出しを約600冊活用できた。 ⑨こまちサロンでは読み聞かせの会を(9回+絵語りすと2回)、6月、2月に読書月間を実施し、読書活動の推進を行った。</p>
<p>ア ク シ ョ ン 6</p> <p>自 立 と 社 会 参 加 を 促 す 力 の 育 成</p>	<p>【生涯スポーツ・生涯文化につながる学習の充実】 ・生涯にわたってスポーツ、芸術・文化活動に親しみ意欲や習慣を育てる指導の充実</p>	<p>①CSを機能させ、ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)を年4回実施する。参加しやすい制度設計の模索(参加者100名以上) ②外部部活指導者による、専門的な指導のもと部活動の計画的な実施 ③府立特別支援学校スポーツ交流会大会等への計画的な参加</p>	<p>○</p>	<p>保護者93% ①ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)には部活動日と重ね、参加しやすくなった。(児童生徒参加者述べ142名)①部活動生徒以外の児童生徒の参加を広げる検討が必要。 ②ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)との連携により様々な外部講師による専門的な指導を計画的に実施することができた。 ③府立特別支援学校スポーツ交流会大会や全都陸上等へ計画的に参加し、それぞれの目標に応じた参加や挑戦を推進できた。</p>
<p>ア ク シ ョ ン 7</p> <p>早 期 支 援 を 重 視 し</p>	<p>【生涯スポーツ・生涯文化につながる学習の充実】 ・生涯にわたってスポーツ、芸術・文化活動に親しみ意欲や習慣を育てる指導の充実</p>	<p>①12年間を結んだ主催者教育や人権教育を計画的に行い、社会へとつなげる指導を行う。 ②SCやSSWと連携し、指導事象を共有化する関係者会議等を行う。 ③心理面の支援に重点をおく教育相談体制の充実、年度当初に全高等部生(小中は希望者)のSC面談を行い心の相談相手の認識を高める。 ④人権尊重の観点から児童生徒の適切な呼称(「さん・さん」呼び)等、校内・職員室内の言語環境の充実 ⑤アンケートによるいじめの未然防止と体罰・不適切な指導の禁止・根絶</p>	<p>○</p>	<p>保護者92% ①3月1回安全の日を設定し、全校対象、児童生徒対象、教職員対象の防災・防犯・安全訓練を実施できた。各学部で安全の日のテーマに沿って計画的に実施することができた。 ②教職員の安全ヘルメットを100%備えられた。②児童生徒の防災頭巾(家庭準備)を100%備えられるようにする。 ③施設・設備の安全点検を毎月実施し、不具合等を集約し対応した。 ④通学路の状況に応じて点検と見守りを行った。猿の対応は井手町と連携しながら情報共有し、適切に対応した。 ⑤消防署等の外部専門家の助言や支援を受けて計画し、実施の様子を評価していただいた。総合防災訓練では、より実際に近づけた設定により児童生徒・教職員の防災意識や安全対応意識を高めることができた。</p>
<p>学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 に よ る 評 価</p>	<p>全般的に前年度よりも活動が活発化しており評価されることである。特にアクション2の【保護者・地域との連携・協働】やアクション4の【生涯スポーツ・生涯文化につながる学習の充実】に関しては、PTAや学校運営協議会と連携しながら、充実した活動が実施されており特筆されることである。次年度以降、アクション6の【進路指導・支援やキャリア発達】についても、地域連携をさらに深めることで、さらなる充実が図られることが期待される。</p>			
<p>次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性</p>	<p>開校第1期のまとめの年度として、3年間の取組の成果を公開研究会で発信する。「地域と共に歩む学校」「インクルーシブ教育システムの構築」に向けて地域と更なる連携を進める。教職員のコンプライアンス意識を高め、教育効果につなげる。変化を前向きに捉え、学び続ける教職員の姿を追求する。組織としての働き方へ意識転換を図り、時間管理とやりがいのバランスをとり、業務の平準化を図る、働きやすい魅力ある職場づくりを目指す。</p>			